

戦史資料

比島、ミナト、本島、サボア、ガ

獨之混成第五十四旅團、陸軍佐廿七田彌壽、良

一編成、裝備關係

自己部隊關係部隊、編成人員、兵器、彈藥

本旅團、獨之步兵三ヶ大隊、砲兵隊、工兵隊、通信隊

より成り、編成當時ノ兵力約三千六百名、計算ス兵器

ハ步兵大隊、歩兵砲各一、押収機關銃各五、輕機銃

銃各四、擲彈筒各六、砲兵隊、押収野砲三門、工

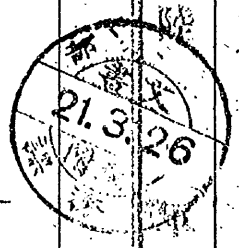
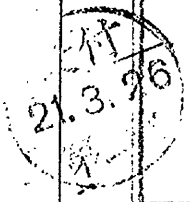
兵隊、特有兵器、対比日無、通信隊三号、丙五號

機一、電話機一。程度ノ劣悪、裝備ナリシモ爾

後、三項ノ如ク増加セラル、彈藥、糧秣、會戰、分

2 職員表

司令官部



(原簿より複製)

0638

副官 大尉梅原保	後援步兵大隊長 戦死 同大隊長(九)
中尉 津島重太郎	附大隊 大塚健三
附 大尉 岡田信一	中尉 山崎清一郎
中尉 高橋三	主計 櫻井登
中尉 徳永三雄	中尉 高橋俊雄
中尉 徳永三雄	中尉 岡安進一
大隊長 佐小泉 透	第一中隊
大隊 附少尉 高野元	中隊長 中尉 旗謙
日野 澤	附中尉 山崎清
小野 茂	附少尉 手塚 徳治
中尉 大橋 忠敏	田 野 吉
平野 誠	櫻井 正一郎
中尉 五月女 勇	

0639

第三中隊	越前俊吾	第四中隊	銃砲隊
中隊長 中村 謙山		中隊長 中村 肇正夫	長中 中村 榮名安貞
附少尉 武藤 明		附少尉 大塚	附少尉 前橋 儀助
若色		少尉 若木 貞雄	黑崎 叔曉
平塚 徹秀		武岡 幹	作業隊
獨守三六一大隊		少尉 鶴岡 喜代治	
大隊長 大村 西中 豊枝		第一中隊	
附中尉 中村 徳壽		中隊長 大村 徳壽	
島 忠雄		附中尉 白根 中一	
今岡 一郎		少尉 蒲生 啓	
鈴木 忠助		山口 貞雄	
小見 昌夫		少尉 佐藤 安昭	
吉原 三浦 信三		中隊長 大村 佐藤 二郎	
		中尉 熊谷 義保	
		澤田 佐市	

(明治40年11月)

0640

第三隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第四隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第五隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第六隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第七隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第八隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第九隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十一隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十二隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十三隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十四隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十五隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十六隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十七隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十八隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第十九隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清
第二十隊	大隊長 大村 森清	附 中村 高場 定	附 中村 吉田 義夫	附 中村 藤原 定郎	附 中村 上 藤吉	中村 森清

第三中隊	中隊長 中尉 堀家 由吉	第四中隊	中隊長 中尉 東福 信平	銃砲隊	陸軍
附 少尉 柳澤 安春	附 少尉 小野 秀吉	附 少尉 杉谷 松雄	附 少尉 福田 富次		
佐藤 義助	桑名 清男	松澤 常雄			
島倉 有信	山原 太郎	中樞 清臣			
旅團砲兵隊	少尉 田村	作業隊			
隊長 大尉 中村 重孝	第一中隊				
附 中尉 池田 輝男	長 中尉 鶴見 之司	第二中隊			
阿部 源二	附 安井	長 中尉 山原			
少尉 藤山 壽一	少尉 大代 裕三	附 鈴木			
横地	少尉 緑川 隆三郎				
西野	官 崎 晃				
新井 正一					

(複製 陸軍省)

0642

旅團之兵隊

旅團通信隊

隊長大尉 澤田源助

隊長中尉 直田隆治

附 中尉 花岡禮記

附 中尉 小林

少尉 西田夫

附 少尉 日川

又人員兵器等ノ増減關係

サニホアノが進駐後 各步兵大隊ニ輕機二。挺擲彈筒

子筒ヲ增加セラシ 砲兵隊ハ更ニ擲野砲二門ヲ

加フス兵隊ハ爆藥一屯タイナイト一屯ヲ裝備ニ通

信隊ハ三號甲一機(電話機二。空固ヲ備フ又海軍ヨリ

二〇耗機銃五ヲ借用ス 兵力モ同ジク海上機動

旅團ノ船固待機部隊約二五〇名ヲ隸下ニ轉入セ

メラシ事前補充員約三百名ノ補充ヲ得旅團

兵力四千ヲ超スル(昭一九一〇) 昭一九一

間)

4 臺灣人鮮人現地會長使役ノ關係

特記スベキ事項ナシ

二部隊復舊ノ概要

1 昭和十九年六月十五日編成ヲ入セラル

2 同年七月二十日比島ノマニラニ於テ編成ヲ完結ス

3 同年八月中旬セブ島ニセブニ主力ヲ集結ス

4 右同 一部ヲ以テ、ミンダナオ島ノザンボアン

ガニ主力ヲ以テ同ノミサミス附近ニ進

出ス

ア 同年十月中旬主力ヲザンボアンニ集結同地防

衛ニ任ズ

イ 昭和二十年二月十日 敵第甲師団陸約二週間正面戦

斗ヲ實施セル後ザンボアンガ各地方

ヲ轉進シテ終戦ニ到ル

陸 第

(陸軍省編)

0644

三 指揮練屬關係其變遷ノ概要

編成完結時第十四方面軍司令官ノ指揮ニ  
屬シセバ島嶼進以後第三十五軍司令官  
官ノ指揮ニ入ル

敵上陸時旅團長ハガニボアノ駐屯海軍兵力

約四千ヲ指揮セリ

四 作戰準備關係

作戰計畫書ノ概要

防衛方針

當初

兩飛行場及港灣設備ヲ確保スルヲ以テ根本  
トス之ガ爲メ兵力ノ重點ヲ同方面ニ指向シ敵ヲ水際

撃滅ス

變更後(レノ作戰後)

0645



飛行場及港灣ハ動メテ之ヲ確保スルニ已ムラ得ザ  
 兵後方ニ陣地セテ於テ敵ヲ撃滅ス兵力ノ重  
 點ハ飛行場方面トシ水際ニ於テハ攻防兩手段適  
 切ナル實施施シ敵ニ大ナル打撃ヲ與ハス  
 (四) 防衛ノ配備  
 正面約二十料ノ山地都市(海山平線より四八至五料)  
 ニ至陣地ヲ配備ス兵力ノ配置ハザンボアガ東北方  
 地区約四隊兩飛行場北側地区海軍主力(整備大隊  
 及航空隊)及約一中隊ザンボアガ西方地区約二隊  
 砲兵主力ハ飛行場北側地区ニ配置ス(以上ハ東方  
 より兵力ヲ順ニ示シタルモノナリ)  
 陣地ノ状況  
 今起ニ時期ハ主力ヲ以テ十月中旬ヨリ開始ス所要  
 人員約三千五百人ニシテ火藥ハ殆ド之ヲ使用

(密着加國川風)

0646

セバノ事ノ普通キニ器材ヲ以テ人カニ依リ

④完成時期及強度

約半部敵上陸ノ直前ニ昭和二十年三月初旬完成セルヲ以テ半部ハ同一月ヲ必要トセリ之ハ一時防衛計畫直及配備ノ變更ノ爲メニシタルニ基クテナリ強度ハ中掩蓋程度ニ概不到達セリ  
ハ敵攻撃ノ依リ破壊補修ノ状況ニ百死屬彈以上ノ傷彈ノ效果ハ絶對ニ近直撃彈ニテハ陣地設備ノ機能ヲ停止セタラルニ到ル右以下ノ分ニ對シテハ補修モ短時間ニ容易ニ實現シ得タリ艦砲射撃ノ威力ハ爆撃ニ比シ優レトモ劣ラズ八米ノ高サアリシ砲掩体ハ數次致命中彈ノ依リ破壊セラレタリ遂ニ敵陣地ト雖モ砲撃數手兩者ノ合

一セル威力ニ依リ強度大ニラサレ限リ安人ニテラス

(二) 港灣施設 飛行場施設

前者ハ船舶ノ入港杜絶ニ加フルニ禦敵ノ好目標トナラシメ故放任ノ已ムナキニ到レリ後若ハ海軍ノ所管官ニ任置シ陸軍トシテハ特ニ注意思フ拂タルニトナシ

3 作戰準備ニ關スルニ要ナル命令ノ内容

略ス

4 軍需物品ノ集積状況

軍需品比較的遠隔ニアリシ兵團トシテ補給輸送ハ全ク意思ノ如クナラス糧秣等ハ殆ド輸送セラレタルニトナシ然シ共南方軍ノ滯留地復若干アリタル爲之ヲ使用スル好運ニト思ヒマシタリ現地自治ノ敵上陸迄ノ期間短カク爲大ニ成果ヲ

(續前頁) (陸軍)

見込にて戦守空入セリ補給輸送に於ては船損  
 耗状況は前述の如きにて特記事項ナシ  
 5. 訓練の状況（戦準備トシテ）  
 一般に重砲の演習は、對戦車戦車トシテ兵隊  
 に対戦車戦車ノ模範タラシムベク總ニ努力ヲ  
 傾ケタリ模範戦車ノ實際ニ近キ現示各種爆薬  
 類ノ製造は毎月一回ノ各隊査閲等ノ如キ夫レ  
 情勢カ然ラズニ他ノ陣地構築強化ニ追  
 ハシ組織的訓練ヲ實施スルノ餘裕ニ恵マ  
 レザリ又陣地構築ハ訓練ヲ犠牲ニスルニ以テ  
 共ニ推進斯クモ如キモ自己ノ陣地ニ親  
 炙スルニトシ依リテ成功ヲ期シ得ヘク陣地  
 構築スルニトガ一ツ大ニ訓練ナルトシ強調  
 教育セリ

五、戦闘状況

今迄の戦況は要した戦闘概略

当兵團はトシザンホアガ敵上陸時正面戦斗を以て

三月八日敵艦船群約百二十隻バシラ海峡に現出

艦砲射撃開始九日同様空軍中隊の攻撃も又熾烈

三月十日旧飛行場方面に海岸より上陸

口逐次に陸軍兵力を増加新飛行場を移動ス

我が軍陣地は在るが砲撃に依り敵の相当なる損害

を喫ハフルト是の現在地を據點トスル推進断以テラ

敢行ス

二、敵上陸後四日目の敵機離着陸

三月二十日頃より我が陣地を對して近迫攻撃漸く盛ニシ

我ノ斬込ニシテ敵ノ近迫に伴ヒ戦果損害共ニ大

トナ

陸

SE

(複製品)

0650

陸軍部

1. 迫撃砲及空中より攻撃せし戦車威力は依り二十四五日頃より逐次戦線より後縮するに及ぶに至り三月二十六日因南方の密林地帯に經て北進を開始す  
 2. 此の間敵戦車二十輛破壊戦死傷二千ノ損害ヲ與へタルモ吾亦同様ノ損害及至要人死傷全減ニ近キ消耗ヲ蒙ルニ到ル  
 3. 機雷部隊より襲撃せし艦載機ノ攻撃ハ殆ド受ケタルコトナリ  
 4. 敵機ノ来襲ハ状況頻繁ナリ時ニ於テ三日間連續三十機餘ノ空襲ヲ受ケ他ハ一日平均五六機程度ナリ  
 5. 敵機ノ損害  
 6. 陸軍トシテハハタル損害ナシ  
 7. 落下不時着降下者ニ對スル處置

(傍註元國田照)

0651

曾過セタ

敵ノ保當者數

ナシ

六給與六衛生

比島地區ニ在リテ良好ナリトモト考ラス

七終戰ノ時ニ歸還シテ一行勇ノ概要

第十四方面軍田口參謀ノ現地來訪ニ依リ

終戰ヲ知リ各部隊ノ奮力ハ概ネ十月中旬頃迄

ニ於テオアガミ軍ニ投降同月下旬ヨリ牧野所

ニ轉送セラレタル後下士官兵ノ大部ハ一月初旬

將校ノ大部ハ三月中旬迄々内地ニ歸還セ

ルモノナリ

0652

課  
長

課  
長

課  
長

課  
長

課  
長

史  
部

(37)

鹿上支兼復茅三留號

戰史資料調書日送附、件通牒

昭和三年三月十四日

鹿上島上陸地支局

第一復員者 御中

首題之別冊(三部)一通、送付又

復  
和昭  
21.3.27  
圖書

3322

21.4.8

4/4

0653